

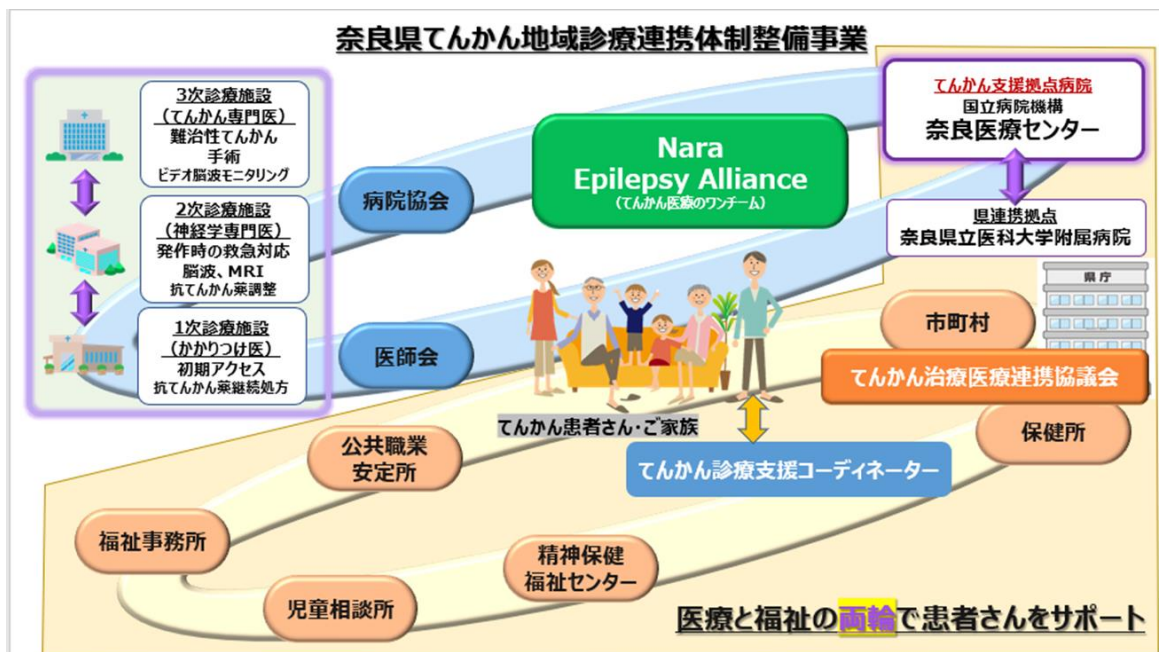
18. 奈良県てんかん対策地域診療連携整備体制事業

国立病院機構奈良医療センターてんかんセンター 平林秀裕

澤井康子

まとめ

- ・奈良県におけるてんかん対策地域診療連携整備体制事業は、2021年4月、てんかん診療拠点機関として、国立病院機構奈良医療センターが指定され、奈良県立医科大学附属病院が連携機関として機能することで、活動を開始している。
- ・医療と福祉の両輪で、てんかん患者をサポートするために、医療者のチームとして、「Nara Epilepsy Alliance (以下NAE)」を立ち上げた。
- ・また、医療・福祉との連携をはかるために、医療・行政・患者代表メンバーからなる「てんかん協議会」メンバーの選出を行った。
- ・てんかん患者の医療・福祉に関する相談窓口となる「てんかん診療支援コーディネーター」の育成を積極的に行うとともに、相談業務も開始している。



【活動報告】

1) NAE (Nara Epilepsy Alliance) の発足・会合

てんかん患者が、適切な医療が受けられるように、県内のてんかん医療を提供する病院・診療所が連携して、てんかん医療の諸問題を検討する会議である。奈良県内のてんかんの診療を行う医療機関の医師を中心としたメンバーで発足した。

なお、第1回目の会合は、R3年11月4日実施し、当院が、奈良県診療拠点病院として認定されたことの告示とともに、今後、定期的に会を開催し、診療上の問題点を話し合っていくことを確認した。

<メンバー>

星田 徹	高の原中央病院	名誉顧問
平林 秀裕	国立病院機構奈良医療センター	院長
澤井 康子	国立病院機構奈良医療センター	小児神経科医長
安東 範明	奈良県医師会	奈良県医師会長
中瀬 裕之	奈良県立医科大学	脳神経外科教授
田村 健太郎	奈良県立医科大学	脳神経外科講師
野上 恵嗣	奈良県立医科大学	小児科教授
榊原 崇文	奈良県立医科大学	小児科助教
福島 英賢	奈良県立医科大学	救急医学教授
杉江 和馬	奈良県立医科大学	脳神経内科教授
牧之段 学	奈良県立医科大学	精神科准教授
橋本 浩	橋本クリニック	院長
紙野 晃人	国立病院機構やまと精神医療センター	院長
小原 啓弥	南奈良総合医療センター	脳神経内科医長
末長 敏彦	天理よろづ相談所病院	脳神経内科部長
高橋 信行	市立奈良病院	脳神経内科部長
川原 誠	奈良県総合医療センター	脳神経内科部長
田口 真輝	奈良県立西和医療センター	小児科医長
泉本 修一	近畿大学奈良病院	脳神経外科部長
虫明 聡太郎	近畿大学奈良病院	小児科部長
奥地 一夫	香芝生喜病院	病院長
青山 信房	平成記念病院	理事長

2) てんかん協議会メンバー選出

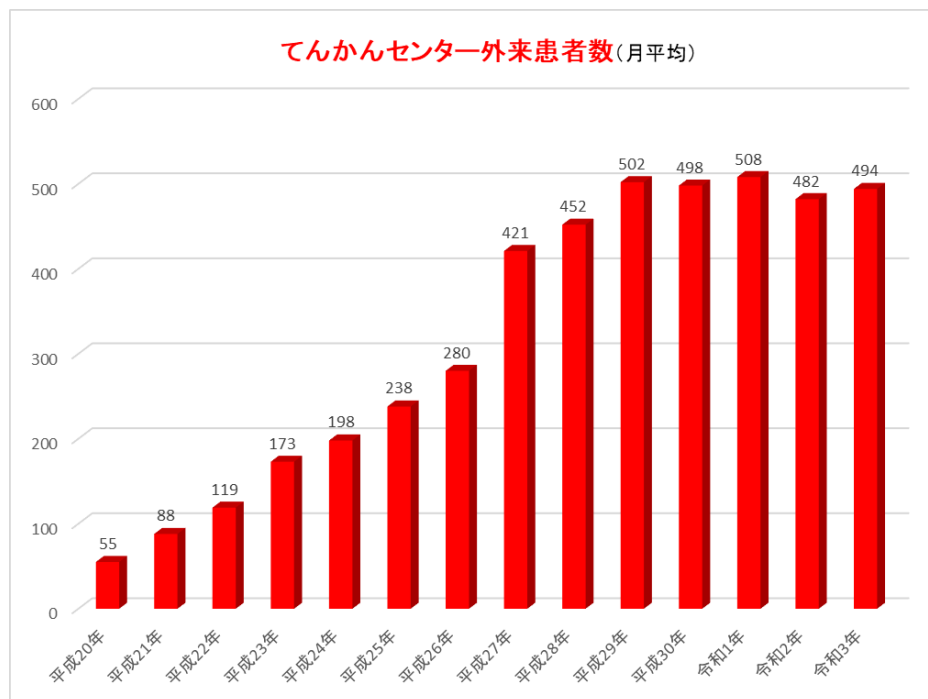
てんかん協議会の開催のために、メンバーの選出を行った。現在は、顔合わせの段階であり、今後は、年数回の会合を予定する予定である。患者会からの要望について、意見を聞く貴重な場と考えている。

	構成員
てんかん治療を専門に行っている医師	奈良県立医科大学 脳神経外科 田村健太郎 奈良県立医科大学 小児科 榎原崇文 奈良医療センター 小児神経科 澤井康子
県疾病対策課 精神保健福祉センター	奈良県疾病対策課長 精神保健福祉センター精神科医師
てんかん患者およびその家族	奈良県波の会会員

3) 奈良医療センターてんかんセンターの診療状況

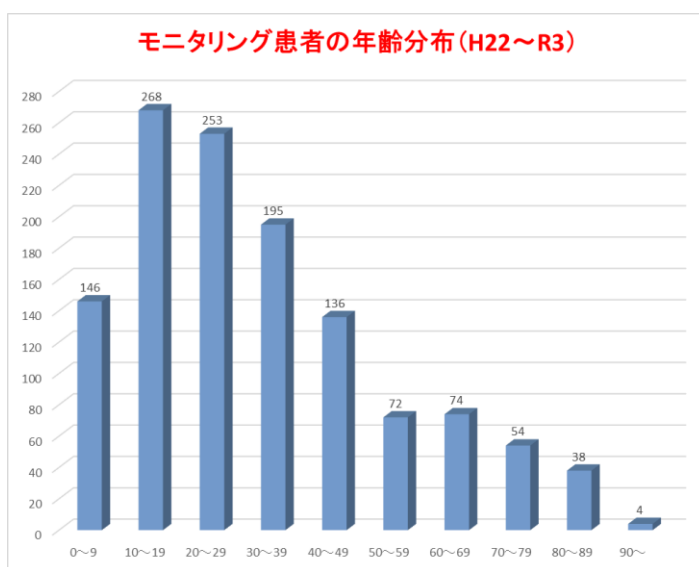
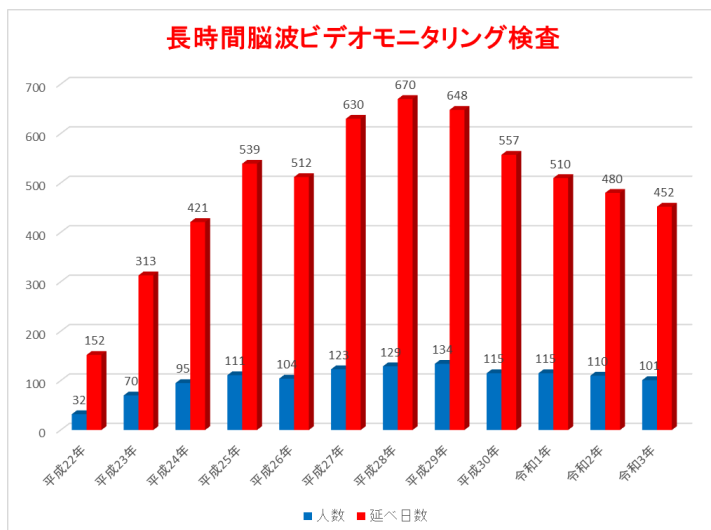
現在、当院では、当院常勤医・非常勤医師が、てんかん専門外来で診療を行っている。脳神経外科4名・脳神経内科医2名・小児神経科医2名（うち、てんかん専門医7名）が担当している。月に約500名の外来患者が来院される。新型コロナウイルス感染の流行があるが、特に、てんかんセンターの受診状況はそれには影響されていない。

<外来患者数>



<長時間ビデオ脳波検査実績>

てんかん診療の質の確保にはかせない長時間ビデオ脳波検査は、ここ数年、年間約100-120例を行っている。奈良県下では、充実したビデオ脳波モニタリングシステムが行える医療機関に限られており、他院からの依頼も多い。脳波解析専門技師2名が専門的に検査を担当・解析業務にも携わっている。小児から成人まで幅広く対応している。また、強度行動障害の患者についても、工夫しながら対応している。



<てんかん外科手術>

てんかん外科症例については、主に当院で長時間ビデオ脳波検査を行ったのち、カンファレンスでてんかん外科の適応等を決定し、その後、連携機関である奈良県立医科大学附属病院にて、主にてんかん手術を行っている。

4) 研修・啓発活動の主催

◆院内研修

令和3年度院内てんかん学習会

	主な内容	講師	対象
R3, 7, 13	てんかん診療拠点機関の指定を受けててんかんの福祉制度について	澤井康子 田中ありさ	看護師・保育士・児童指導員・MSW
R4, 1, 18	てんかんの薬物治療について てんかんに使用する薬剤について	澤井康子 朝日信一	看護師・MSW・薬剤師

◆院内・院外研修

◇てんかんカンファレンス

奈良医療センターのさくら講堂にて、第一木曜日 17:30 より、近隣病院のてんかん専門医が参加して、長時間ビデオ脳波検査の解析・難治症例に対する治療方針等を検討している。医師のみならず、院内からは、多職種に参加がある。

また、2022年1月より、NAEメンバーに対して、WEB配信し、NAEメンバーから、てんかんに興味のある医師に対して、WEB参加ができるよう、声かけをおこない、てんかんにかかわる医師の裾野を広げている。

日時	内容	参加者数
R. 3. 4. 1	16歳・19歳症例	16名
R3. 5. 6	10歳・20歳・19歳症例	16名
R3. 6. 3	11歳・33歳症例	18名
R3. 7. 1	37歳・19歳・63歳症例	16名
R3. 8. 5	14歳・27歳・15歳症例	15名
R. 3. 9. 2	63歳・81歳・65歳症例	19名
R3. 10. 3	49歳・29歳症例	16名
R3. 11. 18	22歳・23歳症例	16名
R3. 12. 2	11歳・16歳症例	16名
R4. 1. 6	4歳・26歳症例	21名

◇患者向け・一般向けの研修について

本年度は実施できていない。

◇R4. 3. 26 パープルデー記念行事を企画している。てんかん拠点病院について・診療体制について・てんかんコーディネーターについて・相談支援に関する窓口について、動画配信を行う予定である。

◆地域訪問

養護学校・障害者事業所・地域包括センター・老健施設等を訪問し、当院での活動について紹介している。また、就労支援センターへの訪問も行い、てんかん患者の就労支援について、ご協力いただくよう依頼を行った。

5) 相談事業・コーディネーターの育成

院内に「てんかん相談室」を設置、てんかん患者・家族が気軽に立ち寄り、コーディネーターが相談に応じられる場所を設置した。現在、電話による相談業務も院内の2名のコーディネーターが行っている。R3. 5月～12月までで、21件の相談があった。受診の相談や、心理社会的問題・制度やサービスの相談等多岐にわたる。

今後、本格的に、診療拠点機関として稼働するために、専門的な知識をもったてんかん診療支援コーディネーターが必要と思われる、認定制度にのっとりた研修会への参加案内を院内院外におこなってゆく予定である。